

「東部地域振興ふれあい拠点施設」鉄骨建方開始

省CO₂の最先端モデルで大規模耐火木造と鉄骨造で実現。鉄骨所要量約1,629t

埼玉県春日部市に建設される「東部地域振興ふれあい拠点施設」が2011年1月から鉄骨建方を開始する。

建設地は埼玉県春日部市南1-1。階数は地上6階、高さ27.1m（軒高23.486m）、延床面積約1万1,000m²。構造はS造、W造、用途は事務所で、省CO₂の最先端モデルとなる。建築主は埼玉県、春日部市で、設計は山下設計、施工は銭高組。ファブは東亜鉄工建設が担当している。工期は2010年7月から2011年6月の予定で、2011年1月に鉄骨建方が開始される予定。鉄骨所要量は約1,629t。

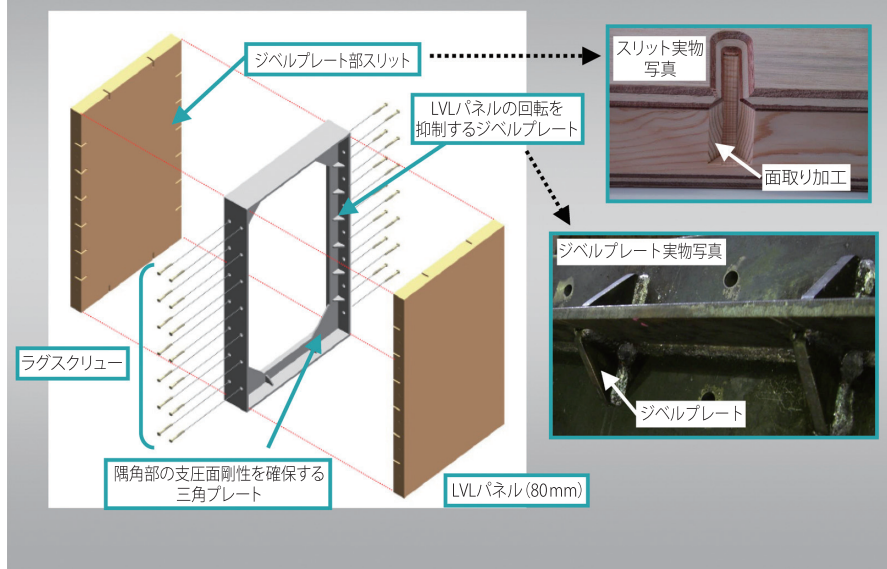
1階から4階までが鉄骨構造の事務所及びホールで、純ラーメン構造として靱性を確保する。5階から6階は木質構造で、事務所等となる。柱はBCP325を採用し、サイズは650×650×36～400×400×12。梁はH形鋼（一部端部拡幅）で、SN490B、SN400B、サイズは1,000×600～400×19×36～500×200×12×22と1,000×650～300×19×28～500×200×10×16を採用。

接合部は柱・梁にダイヤフラム形式を採用し、木質構造部にプラスターボード、鉄骨造部に半湿式ロックウール吹き付け・けいカル耐火成形成板被覆仕上・熱膨張式耐火材を採用している。5階から6階の木質構造部は、建物外周及び中庭外周に市松配置した耐震パネルに地震力を負担させるものとし、建物外周の北面に配置する耐震パネルの前面にはガラスカーテンウォールを採用する。他の南面、西面及び東面の耐震パネル前面にはアルミパネルを配置し、直接雨掛かりにならないように設計している。耐震パネルは、CT鋼（SM490A、フランジ厚さ：16mm、ウェブ厚さ：9mm）による鉄骨枠組にLVL（樹種：カラマツ、厚さ：80mm（両面



「東部地域振興ふれあい拠点施設」のパース

耐震パネルの構造システム



耐震パネルの説明

外側より2層目にクロス端板を設けた、厚さ400mmのLVLを2枚二次接着）、強度：100E-375F、水平せん断性能：50V-43H）を2枚挟み込むように構成している。LVLと鉄骨枠組は、鉄骨枠

組に設けられた三角プレートとラグスクリューを締め込むことにより一体化している。

厚さ1mm以上の耐火性能木造採用は初めての試みとなる。